

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2023年 5月 17日	
所属部局・学年	野生動物研究センター・M1
氏名	田之畑穂花

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
鶴浜岸壁～函館港	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
海棲哺乳類調査実習	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
2024年4月23日 ～ 2024年4月27日 (5日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
北海道大学練習船おしよろ丸、三谷曜子教授	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
今回の実習では、海棲哺乳類を研究するためのフィールドワークに必要な基礎的技術および船上で生活技術を学び、目視調査を行った。北海道大学練習船「おしよろ丸」に乗船した。	
	
おしよろ丸の外観(鶴浜岸壁にて)	学生用の部屋
<b>・スケジュール</b>	
4/23 鶴浜岸壁出港、おしよろ丸の船内生活および調査方法の説明、16:30～17:30 目視調査	
4/24 三重県沖、11:00～17:00 目視調査	
4/25 千葉県沖、6:00～17:00 目視調査	
4/26 三陸、6:00～17:30 目視調査	
4/27 津軽海峡、5:30～9:00 目視調査、函館港入港、現地解散	
<b>・調査方法</b>	
観察は基本的にアップブリッジにて2時間交代のシフト制で、日の出から日没まで行った。観察は3人以上で行い、対象を見逃すことが無いようにした。船首を0度とし、そこから左右それぞれ90度までの範囲で、双眼鏡を用いて目視調査を行った。また、発見した際は、頭数、種などをわかる範囲で記録した。また、1日の観察開始から、30分ごとに天候・見やすさ・海氷・視程・反射の有無・風速を記録した。	

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### ・成果

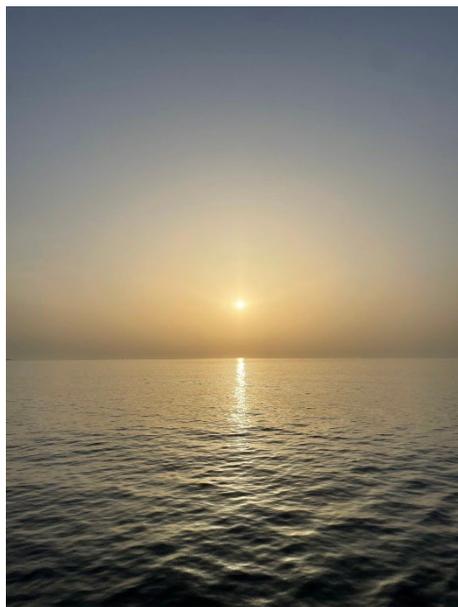
- 4/23 観察時間が短かったため海生哺乳類は何も観察できなかった。天候が悪く途中からブリッジでの観察となった。ブリッジではマンボウのひれの部分が海面から出ているのを目撃した。
- 4/24 和歌山県～三重県沖 水平線付近でクジラのプロローを目撃した。
- 4/25 千葉県沖 ようやく天候がよくなり、見晴らしがよかった。イルカを目撃。
- 4/26 三陸沖 イシイルカの群れが船の真横で目撃できた。海棲哺乳類以外では、アホウドリ、コアホウドリを目撃した。
- 4/27 津軽海峡 日の出の時間帯にオットセイを目撃した。また、イシイルカの群れと何度も遭遇した。

イルカや、オットセイは水族館でしか見たことがなく、日本近海で野生の海棲哺乳類に出会えたことに感動した。特にオットセイが海の上をはねているのを見たときは、当たり前のことではあるが、本当にいるのだ！と驚いた。

基本的に船上での生活は快適ではなかった。特に1日目と2日目は天候が悪く、船が左右上下に揺れた。船が揺れていたはずだが、乗船中は船が揺れているのか、めまいによって自分の視界が揺れているのか判断できないほどであった。私たち学生が使用する部屋は、船の最も下の階にあり特に揺れがひどかった。お風呂場もその階にあったが、お風呂場の椅子に座ると、床が斜めになるので、座ったまま左右にスライドしてしまう。湯船につかるには少し段差を登らなければならないが、大きく揺れて転ぶ可能性があり慣れるまでは、恐怖を感じた。船上での生活で最も印象的だった（海棲哺乳類の目撃以外で）のは、海が最も荒れていた初日の夜に、私たちの部屋の前の廊下で目撃した光景だ。その日は全員が船酔いしていたのだが、廊下の階段の下ではトイレにたどり着けずうずくまる者が一名、トイレからは真っ青な顔で出てくる者が一名、脱衣所でこらえきれなくなる者が一名、部屋からトイレに続く道にはチャックの開いたリュックとリュックからこぼれる大量のエチケット袋、まさしく地獄絵図だった。その光景を横目に、どうすることもできず、胃の内容物が出ないように上を向きながら寝室に向かい、その日は眠りについた。皆、ちゃんと眠れたのだろうか？

船酔いと上手く付き合っていくには、薬とゼリーを常備することが肝要となる。薬の飲み方のポイントは、既に気持ち悪い場合は、薬を飲む前に必ず吐くことだ。薬を飲んでも吐いてしまえば意味がないので、一度吐いてスッキリしてから飲むとよい。また、空腹でも気持ち悪くなってしまうので、吐いて薬を飲んだら、気持ち悪くならない程度にゼリーを飲み、薬をゼリーで上から抑えるとよい。その後、薬が効くまで横になると、だいぶ楽になる。

船上での生活は海が荒れている間はとても過酷だったが、晴れの日々の海はとても青くて綺麗だった。また、過酷な環境でも野生の海棲哺乳類を目撃した瞬間は、船酔いなど、どうでもよくなるくらいの大きな感動があった。



津軽海峡での朝日



目視調査（シフト外）

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【[report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp](mailto:report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp)】宛にご提出ください。

**6. その他**（特記事項など）

おしよろ丸の船員の皆様、および指導してくださった三谷曜子教授、TAの鈴木百夏さんにこの場を借りてお礼申し上げます。